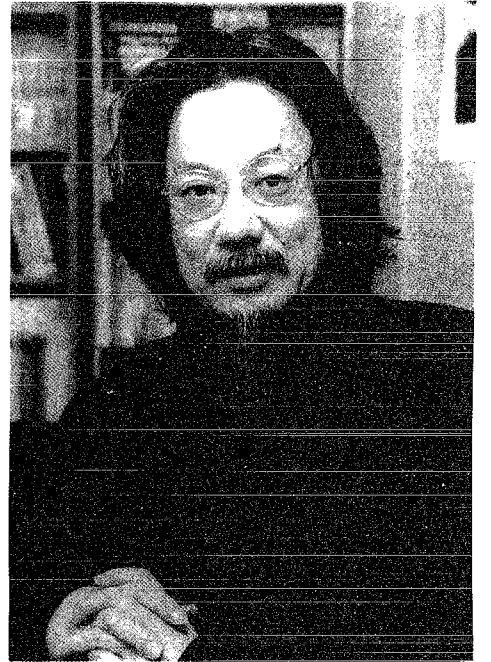




この人に聞く

秋山 仁さん
(数学者)



秋山 仁(あきやま・じん) ●1946年、東京都生まれ。数学者、東海大学教育研究所教授。90年、日本が初出場した第31回国際数学オリンピックの日本団長を務めるほか、テレビ、雑誌などで幅広く活躍。「寅さん」の大ファンでもある。97年から文部省・教育課程審議会委員を務める。

「いま、大人は子どもたちに何を伝えるべきでしょうか？」
講演先などで、お母さん方からよく聞かれます。いろいろありますが、私はこう答えることにしています。
「できるだけいい学校に入って、いい会社に就職すれば、人生はラクなのよという考えを、まず

捨ててください」と。
この二月、長野で開催された冬季オリンピックは素晴らしい場面を見せてくれましたが、もっと感動的だったのは「パラリンピック」でした。身体にハンディのある人たちが、それこそ目を輝かせて、生きるということの幸せ・喜びをまざまざと見

せてくれたからです。
その場面を見ながら、わたしたち大人も含めて、子どもや若者たちが、いま与えられている人生に不満ばかりを見つけているような気がしてなりません。
「たかが八十年の人生、何をやってたってツマラナイ——いま、若者たちの心をこんな悲観的なものが見方が覆っているような気がしてなりません。
しかし、大切なのは、どんな環境にあっても、夢と希望を自分で見つけること。そしてそれに向かって自分を駆り立てて努力すること。

そして、もう一つ大切なのは子どもたちの心に、他人への思いやりの芽を、大きく着実に育てていくことです。
それには、知育だけの偏差値や、カネだけの価値観で子どもたちを追い立てているいまの教育や社会の在り方を、もちろん変えていかなければなりません。なぜなら、子どもたちが将来に夢を感じることでできないような、いまの閉塞的な社会をつくったのは、われわれ大人であるからです。
駅のホームで重い荷物を持ったお年寄りを見かけたら、さりげなく手を貸すことのできる若者が増えれば、これからの世の中はもっと住みやすくなります。そのためには、いま、大人自身が、いくつも夢を持って生きていくことの素晴らしさを、日々の生活のなかで子どもたちに見せていくしか道はないと思います。

「ラクして生きる」ことが子どもの幸せか。 夢ある人生の素晴らしさを大人が見せよう。

「ラクに生きていくのが幸せ」という考え方に、まずわたしたち大人が、サヨナラをするときなのです。(談)

しつけの主役は家庭です。

子どもたちの豊かな心は、小さなころから育てていくもの。そのために最も大きな力を発揮できるのが家庭です。家庭では子どもたちに何をすべきか——。中教審の中間報告では、家庭に対して次のような提案をしています。

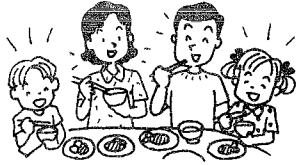
家庭の在り方を 見直そう

子どもたちは「家族のみんなが楽しく過ごす」ことを、家庭の一番大切な働きと考えています。

子どもにとって、家庭は家族の愛情に触れる精神的なよりどころです。そこでの人間関係は、良い面でも悪い面でも子どもの成長に大きな影響を与えます。

まず、それぞれの家庭の在り方を見直すことが出発点です。

思いやりのあ



る明るい円満な家庭を
・夫婦間で一致協力して子育てを

を
・会話を増やし、家族の絆を深める

・過干渉をやめる
・父親の影響力を大切に

・ひとり親家庭も、自信をもって子育てを

家庭で守るべき ルールをつくらう

子どもたちは家庭のルールを守ることを通じて、礼儀や他人への思いやりなどの基本的な対人関係の在り方、責任感やルールの大切さを学びます。

家庭のなかで次のようなルールをつくってはいかがですか。



悪いことは悪い しっかりとつけよう

モラルの形成は、家庭でのしつけが基本です。愛情と信頼関係を築きながら、必要なときには厳しく叱り、誤りを正すことが必要です。

また、親自身が日常生活のなかで手本を示していくことも大事です。

やってはいけないことや間違っていた行いはしっかりと正す
叱るときは、気分や感情に流されず一貫性をもつように。

自分の行いには責任があるというこに気づかせる
家事分担や、地域活動やボランティア活動など異年齢集団での活動への参加を通して、自立心や責任感をもたせるようなしつけを。

思春期の子どもから逃げず、正面から向かい合う

思春期の子どもには、自立を促すとともに、自らの責任を自覚させるようにしましょう。
また、子どもが問題を抱えているときは、微妙な変化がサインです。そのサインに目を背けず、子どもとの会話の糸口を見つける努力をしましょう。

思いやりのある 子どもを育てよう

大人の差別的な意識は、その言動を通じて子どもの中に再生産されてしまいます。親自身が偏見をもたず、差別をしないことを示していくことが大事です。

また、高齢者や弱者に対する思いやりの大切さを、身近な実践を通して学ばせましょう。

・祖父母を大切にしている親の姿を見せる

・手助けの必要な人への思いやり

・差別や偏見を許さない

・生き物との触れ合いを通して、命の大切さを教える

・幼児には親が本を読んで聞かせる